

◆特集◆ のしろ南大豆センター始動！

のしろ南大豆センター

河戸川・浅内地域の農家グループが整備した大豆の大規模乾燥調製施設「のしろ南大豆センター」を訪問し、副代表の保坂智さんと長男の智之さんのお話を伺いました。



のしろ南大豆センターのみなさん  
(提供：のしろ南大豆センター)

**問** 設立の経緯を教えてください。

**智之さん** 令和3年4月に現在代表を務める大塚忠之さんから、国で大規模な大豆の乾燥調製施設の整備に対して補助をする事業があるので一緒にやらないかとお話がありました。

米価が下落している中で、交付金などを加味すると利益率が高い大豆の生産には将来性がありましたし、河戸川・浅内地域

では圃場整備を実施しており、大豆を100ヘクタール生産する計画になっていた。大規模な乾燥調製施設が必要になると考え、河戸川・浅内地域の大豆生産者を中心に6経営体が集まり話し合いを始めました。補助金の申請期限が4月7日と迫っていたので、時間がなくて3日間で計画書を作成しました。

大規模事業でしたが、施工業者の努力もあり、令和3年12月に竣工、令和4年1月から稼働を開始しました。

**問** センターの概要を教えてください。

**智之さん** JAあきた白神から土地を借りて、施設を整備しました。木造平屋建ての建物に乾燥機や選別機を設置、コンバインや大型のハイクリブームなどの農機も導入しました。

**問** 事業の形態を教えてください。

**智之さん** 施設、機械については、農林水産省の「麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト」において2分の1の補助がありました。各経営体から徴収する、施設や機械の利用料で運転資金を賄うとともに、借入金返済をしていくという事業形態です。生産面積と利用者が増えていけば、利用料を下げることで、各経営体の所得向上に寄与できます。

**問** 今後の展望を教えてください。

**智之さん** 当初は各経営体の代表者によって設立しましたが、将来を見据え、30〜40

代の後継者にも参画してもらい、現在は11名で構成しています。後継者世代がメンバーになったことで、若手同士で有意義な情報交換ができています。今後は、生産規模を拡大していきたい米価下落の中でも生き残っていききたいと思っています。

河戸川・浅内地域の農業にはまだまだ課題がありますが、一気に解決はできなくても我々が頑張ることで地域を活性化していくことで少しずついい方向に向かっていければと思っています。



のしろ南大豆センター内の乾燥機と選別機

インタビューを終えて

長ネギの園芸メカ団地もそうですが、後継者世代が参画をしていることで活気と将来性を感じました。若者の働く場の一つとして農業が選択肢になるように応援していきたいと思っています。

取材：鍋谷 暁 今野孝嶺